

標 題 : Relative validity of a semi-quantitative food-frequency questionnaire in an elderly Mediterranean population of Spain
スペインの高齢の地中海沿岸住民における
半定量食品頻度アンケートの相対的な妥当性

著 者 : J.D. Fernández-Ballart, et al. (スペイン Rovira i Virgili 大学
医学・健康科学部 予防医学・ヒト栄養科)

掲 載 誌 : Br. J. Nutr. 103: 1808–1816 (2010)

要 旨 :

本研究の目的は PREDIMED 研究で用いた自己管理による食品頻度アンケート (FFQ) の相対的な妥当性を評価することであり、PREDIMED 研究とは心臓血管系リスクの高い人々で地中海食事による心臓血管系疾患の一次予防を行う臨床試験である。

再現性を探るために FFQ を 1 年に 2 回実施した (FFQ1 と FFQ2)。

妥当性を探るため 4 回の 3 日間食事記録を参照に用いたので ; 参加者は 1 年間に 12 日間にわたる食品摂取を記録した。

FFQ 2 と食事記録からの情報を比較した 5 段階の分割表によって、FFQ における誤分類の程度も評価した。

合計 158 人の男性と女性 (55–80 歳) に、研究中に食事習慣を変えないように要求した。

ピアソンの相関係数 (r) で調べた食品群、エネルギーおよび栄養素摂取の再現性は 0.50–0.82 の範囲であり、クラス内相関係数は 0.63 から 0.90 の範囲であった。

FFQ2 は食事記録よりも高いエネルギーおよび栄養素摂取を報告する傾向であった。

食品群およびエネルギーと栄養素摂取についての食事報告との関連で FFQ の妥当性指数は 0.24 から 0.72 の範囲であったが、クラス内相関係数は 0.40 と 0.84 の間であった。

食品群に関して 68–83% の人は両方の方法で同じか近接する群 (5 段階) であったが、エネルギーおよび栄養素の摂取では数値が 55–75% に低下した。

FFQ 測定は良い再現性があり、他の追跡研究で使用した FFQ と同等な相対的妥当性があると、我々は結論をだした。

キーワード : 妥当性、再現性、食品頻度アンケート (FFQ)、地中海沿岸住民、PREDIMED 研究、スペイン
